

令和 5 年 4 月 6 日現在

機関番号：28002

研究種目：若手研究

研究期間：2020～2022

課題番号：20K19064

研究課題名（和文）離島に特化した乳がん患者の受診遅延者の特徴と看護援助の方略

研究課題名（英文）The characteristics of delay of help seeking behavior and nursing care strategy in the small remote islands

研究代表者

大城 真理子 (Oshiro, Mariko)

沖縄県立看護大学・看護学部・准教授

研究者番号：30776860

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 3,200,000円

研究成果の概要（和文）：本研究の目的は、離島に居住する乳がん患者を対象に、受診遅延の行動特性とその関連要素を明らかにし、離島に特徴的な看護援助につなげることである。受診遅延に関連する要素として、【乳がん検診未受診】、【乳がんだと確信できない症状】、【島に専門的な医療資源がない】、【家族に相談する】が抽出された。これらの要素を踏まえて、2ヶ所の離島で関係機関と離島に居住する乳がん患者の受診遅延を予防するための看護援助の方略について検討した。結果、医療資源の乏しい離島において、受診遅延を予防するためには、＜乳がんに関する最新情報の提供＞と＜専門家に相談できる場の提供＞を行う支援が重要であることが導き出された。

研究成果の学術的意義や社会的意義

離島に居住する乳がん患者の受診遅延の行動とその関連要素、看護援助が明確になることで、医療資源の乏しい離島においても、受診が遅延することなく、適切に受診を促すことにつながるものと考えられる。また、受診遅延者が受診に際して抱える問題は、治療開始後も引き続き存在することから、予防の視点のみならず、離島に居住する乳がん患者の治療継続をサポートする上でも活用できる。国内外の先行研究を概観しても、離島における受診行動に関する研究蓄積は乏しいことから、本研究を基盤にさらなる発展が期待される。

研究成果の概要（英文）：This study clarifies the characteristics of delayed help seeking behavior and related elements in breast cancer patients living on small remote islands, and constructs the characteristics of nursing care strategies in such islands. Factors that delayed help seeking were: 1) having never previously undergone breast cancer screening, 2) having symptoms whose appearance cannot be linked to breast cancer, 3) having limited availability of medical resources on the island, and 4) Disclosing the situation only to the family. The member of breast cancer patient groups, a hospital, Clinical Nurse Specialists (CNS) and researcher discussed relevant nursing care strategies to address the delays in help seeking behavior, whereby two strategies were identified providing updated information related to breast cancer, and providing space and opportunity for consultation with professional medical care providers.

研究分野：がん看護

キーワード：乳がん 離島 受診遅延 看護援助

研究成果の概要

本研究の目的は、離島に居住する乳がん患者を対象に、受診遅延の行動特性とその関連要素を明らかにし、離島に特徴的な看護援助につなげることである。受診遅延に関連する要素として、【乳がん検診未受診】【乳がんだと確信できない症状】【島に専門的な医療資源がない】【家族に相談する】が抽出された。これらの要素を踏まえて、2ヶ所の離島で関係機関と離島に居住する乳がん患者の受診遅延を予防するための看護援助の方略について検討した。結果、医療資源の乏しい離島において、受診遅延を予防するためには、＜乳がんに関する最新情報の提供＞と＜専門家に相談できる場の提供＞を行う支援が重要であることが導き出された。

研究成果の学術的意義や社会的意義

離島に居住する乳がん患者の受診遅延の行動とその関連要素、看護援助が明確になることで、医療資源の乏しい離島においても、受診が遅延することなく、適切に受診を促すことにつながるものと考えられる。また、受診遅延者が受診に際して抱える問題は、治療開始後も引き続き存在することから、予防の視点のみならず、離島に居住する乳がん患者の治療継続をサポートする上でも活用できる。国内外の先行研究を概観しても、離島における受診行動に関する研究蓄積は乏しいことから、本研究を基盤にさらなる発展が期待される。

研究成果の概要（英文）

This study clarifies the characteristics of delayed help seeking behavior and related elements in breast cancer patients living on small remote islands, and constructs the characteristics of nursing care strategies in such islands. Factors that delayed help seeking were: 1) having never previously undergone breast cancer screening, 2) having symptoms whose appearance cannot be linked to breast cancer, 3) having limited availability of medical resources on the island, and 4) Disclosing the situation only to the family. The member of breast cancer patient groups, a hospital, Clinical Nurse Specialists (CNS) and researcher discussed relevant nursing care strategies to address the delays in help seeking behavior, whereby two strategies were identified providing updated information related to breast cancer, and providing space and opportunity for consultation with professional medical care providers.

キーワード：乳がん、離島、受診遅延、看護援助

1. 研究開始当初の背景

乳房の異常に気づいてから医療機関を受診するまでに3ヶ月以上の時間を要した受診遅延は、乳がんの5年生存率に影響する。沖縄県は、39の有人離島を抱える島嶼県でもあり、かつ小離島が大半を占めるため、医師・看護師一人のマンパワーの少ない診療所では、がんの専門的治療は不可能である。また、患者は専門的治療を受けるために、離島の中核病院や沖縄本島まで出向かなければならない。よって、離島に居住する者は、海を超えた距離的・経済的・心理的負担により、受診遅延が生じやすい状況にある。しかし、離島のがん患者の受診行動の実態は明確でなく、支援の困難な状況が課題となっている。

2. 研究の目的

本研究の目的は、離島に居住する乳がん患者を対象に、受診遅延の行動特性とその関連要素を明らかにし、離島に特徴的な看護援助につなげることである。

3. 研究の方法

(1) 離島に居住する乳がん患者の受診に関する情報収集

へき地に居住するがん患者の受診行動の関連要因を明らかにすることを目的としたスコopingレビューを実施した。

離島に居住する受診遅延者の傾向を把握するための予備調査を実施した。

離島における乳がん患者のがん医療専門機関への受診の実態を把握するために、離島に居住する一般女性と、沖縄本島および離島で勤務する医療職者にヒアリングを実施した。

(2) 離島に居住する乳がん患者が、乳房の異常に気づいてから専門的治療を行うまでのプロセスと受診遅延の関連要素を明らかにするインタビュー調査の実施

(3) 離島に居住する乳がん患者に特徴的な看護援助の方略を見出す会議の開催

4. 研究成果

(1) 離島に居住する乳がん患者の受診に関する情報収集

へき地に居住するがん患者の受診行動の関連要因を明らかにすることを目的にスコopingレビューを実施した。13文献を分析した結果、へき地に居住するがん患者の受診の関連要因として、() 個人的要因：自立志向、症状解釈、運命論的思考、() 個人間的要因：家族の理解不足、周囲の者からの影響、医療者への不信感、() グループ・文化・組織的要因：スティグマ、恥、匿名性の欠如、() 政策・環境的要因：医療資源の不足、医療機関との物理的距離、時間的な負担などが挙げられた。

離島に居住する受診遅延者の傾向を把握することを目的に離島に居住する乳がん患者9人(遅延群3人、非遅延群6人)のデータを用いた予備調査を実施した。離島に居住する乳がん患者の受診遅延には、離島の医療資源の乏しさや、医療者からのサポートが乏しいことが関連する可能性が示唆された。

離島における乳がん患者のがん医療専門機関への受診の実態を把握するために、離島に居住する一般女性（6人）へのインタビュー調査と沖縄本島（5人）および離島で勤務する医療職者（6人）にヒアリングを実施した。離島に居住する一般女性へのインタビュー調査から、離島では乳がんの医療専門機関への受診に際して、島外に出なければならず、その際に渡航費や宿泊費といった個人にかかる負担が大きいこと、そして離島において人間関係の結びつきが強く病気のことを知られたくないと感じる者も少なくないことが明らかになった。また、沖縄本島および離島の医療職者へのヒアリングから、離島の乳がん患者は島の医療機関を介さずに直接、沖縄本島の医療機関を受診することがほとんどであり、離島の医療者が乳がん患者に関わる機会は困難事例あるいは終末期の事例であることが示唆された。

（2）離島に居住する乳がん患者が、乳房の異常に気づいてから専門的治療を行うまでのプロセスと受診遅延の関連要素を明らかにするインタビュー調査の実施

離島に居住する乳がん患者の受診遅延の行動特性とその関連要素を明らかにする目的で、2020年9月～2023年2月に離島に居住する乳がん患者14人を対象に、対面または電話で40～120分の半構造化面接を行った。そのうち4人が乳房の異常に気づいてから治療に結びつく受診に至るまでに1年以上の時間を要しており、明らかな異常を確信したことを契機に医療機関を受診していた（表1）。

表1．離島に居住する受診遅延者の乳房の異常に気づいてから受診に至るまでのプロセス

	ID	異常に気づく			受診			
小離島	1	乳がん検診未受診	自分で皮膚の違和感に気づく		家族に相談し、受診を勧められるも1年様子を見る	症状の悪化（乳頭変形、皮膚離開）	中核離島の内科に定期受診時、主治医に相談→沖縄本島の乳腺外科へ紹介される	沖縄本島の乳腺外科（専門医）を受診する
	2	乳がん検診未受診	自分でしこりに気づく		3年放っておく	症状の悪化（嘔吐）		沖縄本島の救急外来を受診
中核離島	3		乳がん検診で異常に気づく（しこりが見つかる）	沖縄本島の病院を受診→問題ないと診断される	3年様子を見る	症状の悪化		沖縄本島の乳腺外科（専門医）を受診する
	4	乳がん検診で異常なし	自分でしこりに気づく	沖縄本島から医師が島に来る予定で受診予定だったが延期となる	1年様子を見る	症状の悪化	中核離島の外科を受診→沖縄本島の病院での治療を希望し紹介してもらう	沖縄本島の乳腺外科（専門医）を受診

受診が遅延した4人の語りを質的帰納的に分析した結果、がん医療専門機関への受診までに下記の要素が複合的に存在することが明らかになった。

【乳がん検診未受診】

「乳がん検診は大体いつも仕事とぶつかってやっていなかった。年に一度、島に検診車が来て多分3日間くらい滞在している。この時期に検診に行かないといけない（ID1）」

「島では検診とかしてなくて。面倒くさいじゃないけど、沖縄本島に行ったときにしようと思っていて、検診はずっと利用してなかった。わざわざお休みを取るってこともなくて（ID2）」

【乳がんだと確信できない症状】

「皮膚の何かとあっていて医者に見せないと、とっていた (ID1)」

「しこりもすぐ消えちゃったりするもんだから、常時見えなくて受診はしてなかった (ID2)」

「仕事をしながら様子を見ていたんですけど、痛くも何ともないので (ID4)」

【島に専門的な医療資源がない】

「離島だと診療所しかないから (ID2)」

「島には専門医がいない。一度 (医師に) 何でもないって言われたら何回も診察を受けるわけにもいかない (ID3)」

「沖縄本島から専門医の先生が来る予定だったんですけどコロナで予定通りに来られなくなって (ID4)」

【家族に相談する】

「夫に1回医者に見せた方がいいって言われた (ID1)」

「姉なんかには相談しましたね。ここに何かあるよって。そしたら、病院行った方がいいんじゃないって (ID2)」

「母に何でもないんじゃないって言われた (ID3)」

(3) 離島に居住する乳がん患者に特徴的な看護援助の方略を見出す会議の開催

インタビュー調査の結果を踏まえ、下記の通りに2ヶ所の離島において関係機関とディスカッションを行い、離島に居住する乳がん患者の受診遅延を予防するための看護援助の方略を検討した。

A 離島 (地域がん診療病院あり)

2022年10月にA離島で活動する乳がん患者会メンバー(1人)と沖縄本島で離島の乳がん患者を支援している乳がん患者会メンバー(3人)でディスカッションを行なった。その結果、医療資源の乏しい離島において受診遅延を予防するためには、<乳がんに関する最新情報の提供>と<専門家に相談できる場の提供>とが必要であることが導き出された。

B 離島 (地域がん診療病院なし)

2023年3月にB離島に居住するがん体験者(2人)とその家族(1人)、役場保健師(2人)、病院(ナースプラクティショナー、ソーシャルワーカー)、沖縄本島で活動するがん看護専門看護師(2人)、ピアサポーター(1人)とディスカッションを行なった。その結果、B離島において、異常に気づいた際に、がんに関して相談する場所がないことが課題として挙がり、受診遅延を予防するためには、<乳がんに関する最新情報の提供>と<専門家に相談できる場の提供>をB離島内外の関係機関が連携してすることが必要であることが導き出された。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計1件（うち査読付論文 1件/うち国際共著 1件/うちオープンアクセス 1件）

1. 著者名 Mariko Oshiro, Midori Kamizato, Sayuri Jahana	4. 巻 22
2. 論文標題 Factors related to help-seeking for cancer medical care among people living in rural areas: a scoping review	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 BMC Health Services Research	6. 最初と最後の頁 1 - 17
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.1186/s12913-022-08205-w	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 該当する

〔学会発表〕 計6件（うち招待講演 1件/うち国際学会 3件）

1. 発表者名 大城真理子、神里みどり
2. 発表標題 離島に特化した乳がん患者の受診遅延者の特徴：予備的検討
3. 学会等名 日本ルーラルナース学会第16回学術集会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 大城真理子、神里みどり
2. 発表標題 島の限られた資源を活用したナースプラクティショナーの看護実践
3. 学会等名 第41回日本看護科学学会学術集会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 大城真理子、神里みどり
2. 発表標題 Seeking help for cancer care in rural areas: a literature review
3. 学会等名 Transcultural Nursing Society Conference in Japan 2020 Held virtually（国際学会）
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 Mariko Oshiro, Midori Kamizato, Takako Higaonna
2. 発表標題 Issues Pertaining to Breast Cancer Care in Remote Islands: From the Perspective of the Members of Breast Cancer Patient Groups
3. 学会等名 The 7th International Nursing Research Conference of World Academy of Nursing Science (7th WANS) (国際学会)
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 Mariko Oshiro, Midori Kamizato
2. 発表標題 The environment of help-seeking for breast cancer care among small-islander women: A pilot study
3. 学会等名 26th East Asian Forum of Nursing Scholars (国際学会)
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 Mariko Oshiro
2. 発表標題 Early career researchers' experiences under COVID-19 pandemics: Focusing on research methodology
3. 学会等名 WANS seminar (招待講演)
4. 発表年 2022年

〔図書〕 計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
---------------------------	-----------------------	----

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8 . 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------